

平成 24 年度愛媛県歯科技工士生涯研修（基本研修課程）抄録

伊集院 正俊

専門課程：『メタルインレーの製作とその考え方（実践編）』

セラミックを中心とした審美修復や CAD/CAM、3D プリント、インプラント等の最先端歯科技工花盛りの現在において、あえて基本中の基本とも言える、以外にも奥の深いメタルインレーの話をしてみようと思います。

小生が目にした、もっとも昔のメタルインレーは 43 年前、さらにさかのぼる事 40 年前に製作され、フランスの展示会に出展され一躍世界の脚光を浴びた模型です。その製作者は近代歯科医学に大きな業績を残した、恩師でもある原田良種先生です。8 本ほどの各種窩洞形態のメタルインレーでした。

その模型を見た瞬間の、鳥肌が立った時の事を今でも鮮明に記憶しています。

コンポジット・レジンが普及し、さらにプレス・セラミック等が進出してきて、数が少なくなって来たとは言え、まだまだ、日常臨床にメタルインレーが多くの患者さんの歯科医療の用に供しているのは紛れもない事実です。

実践に即して、分かりやすくメタルインレーの製作とその考え方を、臨床の話と経験談を交えながら、その奥深さを共有できるよう努めますので、ご参加の皆さまのメタルインレーへのさらなるご理解の一助となれば幸いです。

教養課程：『世界の歯科技工事情』

～世界に活躍する日本人歯科技工士～

日本の歯科技工士の教育水準、技術水準は世界でもトップクラスだとの評判があります。

世界で活躍する日本人歯科技工士の方々から伺ってみても、その事実はどうやら本当のようです。

激動する世界の歯科技工界において、ややもすると閉鎖的傾向にある日本の歯科医療界も、昨今 TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）も話題になる中、そのグローバル化の波とどのようにつき合って行ったら良いのでしょうか。

目覚ましい発展を遂げている象徴のような存在の中国歯科技工界。ギルド制度以来の歴史を持ち、マイスター制度により世界の歯科技工界をリードするドイツ。革新的医療制度の下のスウェーデン。何はにおいても、大国アメリカ。デザインに定評のあるイタリア。先進のスイス、リヒテンシュタイン。急速に発展しつつある韓国、そして、ご存じ ASEAN 諸国等々。

日本の歯科技工界の現状を打破するための問題点はどこにあるのでしょうか。

世界に視野を転じ、日本の様々な問題点を皆様と共に検証してみましよう。

これからの歯科技工界、歯科技工技術、そして経済の展望に少しでもお役に立つヒント、モチベーションが見つければこの上ない喜びです。